

アイランダー高校生サミット 2026開催決定

本誌編集部

二〇二七年一月二四日（日）開催

本財団では、包括連携協定を締結している大正大学と共同で「アイランダー高校生サミット2026（以下、サミット）」を、二〇二七年一月二四日（日）にオンラインにて開催いたします。

サミットは、全国の離島に所在する高校などに通う生徒をオンラインで結び、それぞれの島が持つ可能性や、島同士で交流することの意味や価値などの議論を通して、生まれ育った島に対する愛郷心を育むとともに、将来の島づくりを担う人材の育成を目的としています。

今年度が四回目の開催で、今回は

全国九都道県二〇校から五九人の離島高校生が参加。島の「文化」「仕事」「イベント」「観光」「生き物」「食」「生活」「学校・教育」の八テーマグループに分かれて、離島の現状や課題、共通点や違いなどを分析し、島を盛り上げるための事業計画を発表しました（※1）。

サミットでの出会いをきっかけに、愛媛県立弓削高校の田中楓夏さん（当時二年生）と北海道奥尻高校の小井玉結花^{ゆい}さん（同）が所属する学校の部活動がつながり、学園祭などでお互いの生徒が開発した商品を販売し合う、といった新たな交流も生ま

れています。

また、参加者へのフォローアップ調査結果によると、サミットへの参加が島の魅力や課題を見つめ直す契機となり、他島の高校生との交流が自身の地域や進路に対する意識・考え方の変化にもつながっています。

高校生たちがつなぐ、島の未来！

今回のサミットの企画・運営は、島の高校に通う生徒一人（原則的に前回の参加者から選定）と、大正大学生五人で構成する実行委員会（詳細は名簿参照）が担います。

七月三〇日（木）一六時半より、実行委員たちが東京に集まり、共同通信社で「アイランダー高校生サミット2026」の開催記者発表を行いました。はじめに鈴木健真実行委員長が今回のサミットの開催概要や目標などを説明。「今年度のテーマ『つながる島々、ひろがる視野



アイランダー高校生サミット2026の実行委員たち。

■アイランダー高校生サミット2026実行委員名簿

大学生実行委員(5人)

鈴木健真(大正大学地域創生学部4年、実行委員長)、木坂愛天音(同4年、副実行委員長)、神谷この(同4年)、田中沙季(同4年)、久保田海央(同3年)

高校生実行委員(11人)

吉川和希(北海道礼文高校2年)、小井土結花(北海道奥尻高校3年)、折田泰市(東京都立小笠原高校3年)、宋友嘉(広島県立広島智学学園高校3年)、塚田素(同大崎海星高校2年)、田中楓夏(愛媛県立弓削高校3年)、山口晃輝(長崎県立志岐高校3年)、平間悠誠(同対馬高校3年)、角永太晟(同北松西高校2年)、直島花那(鹿児島県立徳之島高校3年)、山田心悟(沖縄県立久米島高校2年)



※1



※2

●アイランダー高校生サミットに関するお問い合わせ

(公財)日本離島センター(担当:森田) 03-3591-1151

かがやけ未来』には、島と島、人と人とのつながりを大切にしながら、さまざまな価値観に触れて視野をひろげ、そこで得た学びをそれぞれの島へ持ち帰り、かがやく未来のために役立ててほしい、という想いが込められています」と話しました。

続いて、各高校生委員たちが「さまざまな離島の高校生と交流し、自分の島と共通することや違いなどをたくさん吸収して、地域の未来になげたい」(角永太晟委員)、「離島の高校生たちが高め合う場として必ず成功させたい!」(山田心悟委員)な

ど、自らの口でサミットに懸ける想いや意気込みを語りました。

記者発表には新聞社や通信社など多数のメディアが集まり、その模様はさまざまな媒体で報じられました。

離島高校生の積極的なご参加を!

現在、サミットに参加する離島の高校生を募集中です! 申し込みは公式ウェブサイト(※2)から行なうことができます。サミットの本番当日までに数回にわたって事前交流会(オンライン)の開催も予定しておりますので、早めのお申し込みをおすすめします。

また、サミットに関心のある生徒、親御様、教育関係者の方々からのご相談や問い合わせも受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。(問い合わせ先は上記参照)。

離島高校生の積極的なご参加をお待ちしております。

(大川)